

別記様式（第6関係）

		担当課	建設部 水道課
会議の名称	第1回鴻巣市上下水道事業運営審議会		
開催日	平成29年 7月 25日（火）		
開催時間	午後 1時 30分 開会 ・ 午後 3時 45分 閉会		
開催場所	鴻巣市役所 会議室棟 1001 会議室		
議長(委員長・会長) 氏名	会長 千秋 裕一 副会長 山田 芳久		
出席者(委員)氏名 (出席者数)	千秋裕一(会長)、山田芳久(副会長)、太田 博、黒沼淳子、藤村祐子、 小幡 剛、岡部 稔、堀切 孝、堀 和行、西尾治道 (10名)		
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	なし(0名)		
事務局職員職氏名	(建設部水道課) 部長:小谷野幹也 副部長:村田弘一 課長:三村 正 副課長:柴崎達也・小林弘樹・伊藤正一 主事補:村田美紀子		
傍聴の可否 (傍聴者数)	傍聴可 (傍聴者 0名)		
会議の内容	(次第) 1 開会 2 委員委嘱 3 委員・事務局の紹介 4 会長・副会長の選出 5 市長諮問、挨拶 6 議題 (1) 審議会の進め方 (2) 審議スケジュール (3) 鴻巣市水道事業ビジョン素案の説明・審議 ア 鴻巣市水道事業ビジョンの策定の経緯 イ 鴻巣市水道事業の現状と課題 (4) その他 7 閉会		

(決定事項など)

- ◆ 会長に千秋委員、副会長に山田委員を選出した。
- ◆ 次第6(1)、(2)の審議会の進め方及び審議スケジュールの事務局案を説明し、了承された。
- ◆ 今回の審議会では、水道料金の改定は決定しないこととするが、水道事業における課題を踏まえ、水道料金の今後の方向性について議論する必要がある旨、会長から説明があった。
- ◆ 次第6(3)について、事務局からの説明に対して、以下のような質疑応答がなされた。
 - ・ 「浄水施設及び配水池の耐震化率について、水道ビジョン(素案)の掲載値と、昨年度の埼玉県報告値が異なっているが、算出方法は同じか」という質問に対し、事務局から「いずれの指標も、算出方法は同じであるが、数値の違いについては、次回までに確認する」と回答があった。
 - ・ 「耐震化や老朽化対策の必要性に対して、給水収益が減っていくと、今後の経営が厳しくなることが想定される。今後の経営について、事務局としての具体的な対策が示されるのか」という質問があった。さらに、会長から「施設のダウンサイジング、企業債の借り入れ、施設の長寿命化等の方策を検討すべきである」という意見があった。これに対して事務局から「第2回・第3回の審議会で検討結果を提示する予定である」と回答があった。
 - ・ 「ダクタイル鋳鉄管の継手について、近年は耐震継手を採用しているが、以前は非耐震継手を採用していたと考えらえる。非耐震継手の残存状況はどの程度か」という質問に対し、事務局から「創設当時に布設した古い管路は非耐震継手であり、相当数が残っている状況である」と回答があった。
- ◆ 次第6(3)について、委員より次の意見があり、これら意見に対して、次回審議会において事務局の考えを示すこととなった。
 - ・ 「資産を法定耐用年数で更新するのではなく、補修等により長寿命化することにより、更新費用や減価償却費を削減するべきではないか」との意見があった。
 - ・ 「給水収益を増やす方策として、例えば電気のように昼夜で異なる料金体系を検討する必要があるのではないか」との意見があった。
 - ・ 「収益的支出の3割を占める県水受水費を抑えるため、市の地下水を増やす検討が必要ではないか」との意見や、「現在、市の水道施設能力は一日最大配水量に対して余裕があるので、市の地下水を最大限に活用することで受水費を抑えられないか」との意見があった。これに対し、事務局から「県水の受水比率を下げることは地下水能力的には可能と考えられるが、受水量を減らしすぎることにより県水単価が上昇する可能性がある」また、「地下水の取水量を増やすと、井戸施設等の投資が増えるため、県水と地下水のどちらが安くなるかは、ライフサイクルコストを確認してみないと分からない」という回答があった。
 - ・ 「埼玉県では、水道事業の経営基盤の強化を目的として、水道事業の広域化を推進している。本水道ビジョン(素案)でも、広域化を具体的に記載できないか」という指摘があった。

<p>会議の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ また、広域化については、鴻巣市が所属する 9 ブロック内の検討だけでなく、埼玉県内の 12ブロックと「人口や修繕費などのデータを積み重ねながら議論を進めた方が良いのではないか」との意見があった。 これに対し、事務局から「9 ブロックでは各事業体のデータを持ち寄り、水道メーターの共同購入など、ブロック内で出来ることは無いのか、比較やシミュレーションを進めているところである。経営統合をすぐに実現するのは難しいが、メーターの共同購入等は、早い段階で対応出来るのではないか」という説明があった。 ・ 「平成17年度の1市2町の合併時に、合併特例債を活用して水道施設への投資は実施しなかったのか。また、電力の自由化に伴い、電力会社の変更を検討していないのか」との質問に対し、事務局から「合併前から旧1市2町で水道事業を運営しており、合併に伴う新たな建設投資の必要性がなかったため投資はしなかったと考えられる。また、電力自由化に伴う契約変更については、現時点では実施していない」との回答があった。 これに対し、委員から「電力会社を変えることで民間の場合は電気代を抑えられているので、水道事業においても電力会社について調査・研究をした方が良いのではないか」との意見があった。 ・ 「地球温暖化の影響で水道水の需要は増えていないのか」という質問に対し、事務局から「水需要は増えておらず、横ばいか減少傾向にある」との回答があった。 これに対し、委員から「水道水の使用量を増やす方策(付加価値を付ける、ペットボトル販売等)が無いだろうか」との意見があった。 <p>◆ 第2回鴻巣市上下水道事業運営審議会は、8月24日(木)午前10時から行うこととした。</p>
<p>配布資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回鴻巣市上下水道事業運営審議会 次第 ・【資料1】平成 29 年度 鴻巣市上下水道事業運営審議会 名簿 ・【資料2】鴻巣市上下水道事業運営審議会 条例 ・【資料3】鴻巣市上下水道事業運営審議会の進め方(案) ・【資料4】鴻巣市水道事業ビジョン(素案) ・【資料5】鴻巣市水道事業ビジョン(素案)の概要 ・聞いてみたい鴻巣の水道(鴻巣市上下水道事業運営審議会 質問書)